

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商 品 分 類	追加型投信／内外／株式	
信 託 期 間	無期限（設定日：2014年12月29日）	
運 用 方 針	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に以下の運用を行います。	
主 要 運 用 象	コモンズ30+しずぎんファンド	「コモンズ30マザーファンド」（以下、「マザーファンド」といいます。）の受益証券を主要投資対象とします。また、株式会社静岡銀行の発行する普通株式に直接投資します。その他、国内外の株式等に直接投資する場合があります。
	コモンズ30マザーファンド	国内外の金融商品取引所に上場されている株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	コモンズ30+しずぎんファンド	株式への投資割合には制限を設けません。外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
	コモンズ30マザーファンド	株式への投資割合には制限を設けません。外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分 配 方 針	年1回の毎決算時に、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、委託会社の判断により、分配を行わないことがあります。 当ファンドは分配金再投資専用です。よって、分配金は税金が差引かれた後、自動的に再投資されます。なお、収益の分配にあてなかった利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

運用報告書（全体版）

コモンズ30+しずぎんファンド

第1期（決算日：2015年12月18日）

◆受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
「コモンズ30+しずぎんファンド」は、平成27年12月18日に第1期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。
今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



commons
asset management, inc.

コモンズ投信 株式会社

東京都千代田区平河町二丁目4番5号 平河町Kビル5階
<http://www.common30.jp>

◆お問合せ先

コールセンター：TEL. 03-3221-8730
受付時間 9：00～17：00（土日祝日、年末年始を除く）

皆さまのおかげを持ちまして、『コモンズ30+しずぎんファンド』の1期目の決算を迎えることが出来ました。まさに、我が子が1歳の誕生日を迎えたのと同じような気持ちです。改めて役職員一同、心から感謝申し上げます。

当ファンドは地方における家計の金融資産が中長期的に成長することで、地域における消費や経済活動が活発化し、こうした循環が地方創生につながるとの想いで誕生した商品です。具体的には、環境の変化が激しくグローバルな競争が厳しい時代を乗り越えられる企業を中心に厳選投資を行う「コモンズ30マザーファンド」を通じて世界の成長を家計の金融資産に取り込み、さらに地域に密着した静岡銀行への投資を通じて地域社会に貢献する。こうした未来志向な地域金融の実現を「コモンズ30+しずぎんファンド」は目指しています。

例えば、スイスも日本と同じようにマイナス金利が導入されています。スイスのアルプス地方に住む方々も預金だけでは家計の金融資産は成長しませんが、一部の預金をスイスを代表するネスレに投資をしたらどうなるでしょうか？世界140カ国でビジネスを展開する世界最大の食品メーカーで、売上げの約98%はスイス以外というグローバル企業です。ネスレに投資した資金は、グローバルな事業を通して世界中を飛び回り、その果実としてスイスの家計に戻ってきます。こうして、家計の金融資産が世界の成長とともに増えていくことになるのです。

コモンズ30マザーファンドの投資先には、日本を代表するグローバル企業が多く含まれています。当ファンドの決算時点では、投資先30社のうち19社で海外売上高比率が50%を超え、そのうち10社が70%を超えています（ホンダ、日揮、ディスコ、マキタ、コマツ、シスメックスなど）。こうした企業は、前述のネスレ同様に、日本の人口減少などの課題を乗り越えて世界で活躍し、家計にその果実をもたらしてくれることでしょう。

加えて、静岡銀行への投資は、結果として地域社会の資金循環を活発化させることの一助となるはずです。今後もこうしたコンセプトに基づき、中長期で安定的なパフォーマンスを目指して参ります。どうぞ、引き続き、『コモンズ30+しずぎんファンド』にご期待ください。

なお、当ファンドのコンセプトなどに基づく地域社会の発展を目指して、昨年10月に静岡銀行と当社は資本業務提携を行いました。

コモンズ投信株式会社
代表取締役社長

伊井 哲朗

目 次

実 績

- 設定以来の運用実績 1
- 当期中の基準価額と市況等の推移 1

概 況

- 運用経過 2
- 分配金について 9
- 今後の運用方針 10

詳 細

- 1 万口当たりの費用明細 11
- 売買および取引の状況 11
- 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合 12
- 主要な売買銘柄 12
- 利害関係人との取引状況等 12
- 組入資産の明細 13
- 投資信託財産の構成 13
- 資産、負債、元本および基準価額の状況 14
- 損益の状況 14
- お知らせ 14

ご参考

- コモンズ30マザーファンド 15

●設定以来の運用実績

決 算 期	基準価額 (分配落)	税込み 分配金	期 中 騰落率	参考指数 (TOPIX)	期 中 騰落率	株 式 組入比率	純資産 総 額
(設 定 日) 2014年12月29日	円 10,000	円 —	% —	1,427.50	% —	% —	百万円 55
1 期 (2015年12月18日)	10,554	0	5.5	1,537.10	7.7	96.1	454

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」は実質組入比率を記載しております。以下、同じです。

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 設定日の純資産は、設定元本を表示しております。

(注) 基準価額は1万口当たりで表記しています。

(注) T O P I X : 東証株価指数(東証市場第一部に上場しているすべての日本株を対象とした、時価総額加重型の株価指数)

●当期中の基準価額と市況等の推移

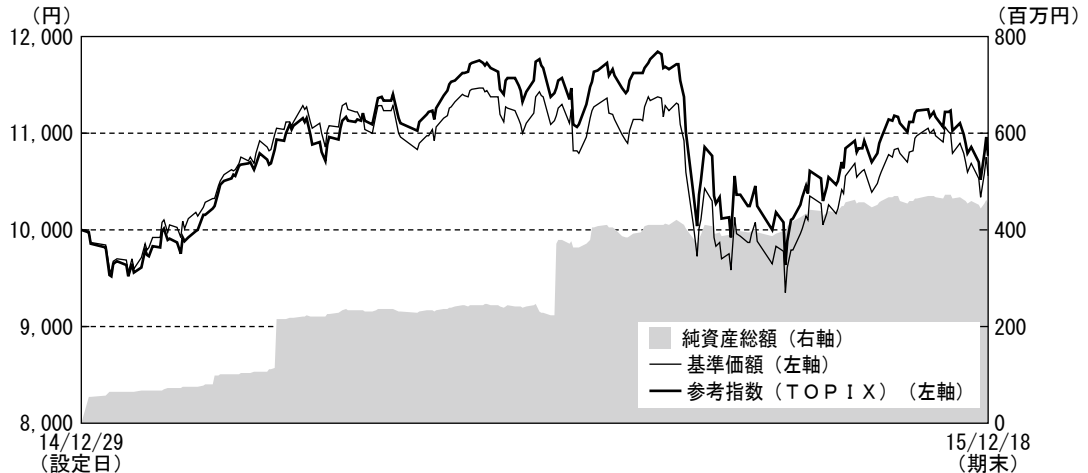
年 月 日	基準価額	騰落率	参考指数 (TOPIX)	騰落率	株 式 組入比率
(設 定 日) 2014年12月29日	円 10,000	% —	1,427.50	% —	% —
12月末	9,876	△ 1.2	1,407.51	△ 1.4	99.6
2015年 1 月末	10,057	0.6	1,415.07	△ 0.9	98.6
2 月末	10,748	7.5	1,523.85	6.7	97.3
3 月末	11,006	10.1	1,543.11	8.1	98.5
4 月末	10,996	10.0	1,592.79	11.6	98.7
5 月末	11,458	14.6	1,673.65	17.2	97.5
6 月末	11,130	11.3	1,630.40	14.2	95.8
7 月末	11,141	11.4	1,659.52	16.3	99.6
8 月末	10,304	3.0	1,537.05	7.7	99.4
9 月末	9,608	△ 3.9	1,411.16	△ 1.1	95.5
10月末	10,629	6.3	1,558.20	9.2	96.6
11月末	10,915	9.2	1,580.25	10.7	95.8
(期 末) 2015年12月18日	10,554	5.5	1,537.10	7.7	96.1

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は設定日比です。

運用経過

■ 基準価額等の推移について

(2014年12月29日～2015年12月18日)



第1期首：10,000円

第1期末：10,554円 (既払分配金0円)

騰落率：5.5%

(注) 当ファンドは設定日より本期末まで分配が行われていないため、分配金再投資基準価額は表示しておりません。

(注) 基準価額は1万円当たりで表記しています。

(注) TOPIX：東証株価指数(東証市場第一部に上場しているすべての日本株を対象とした、時価総額加重型の株価指数)

(注) 参考指数 (TOPIX) は、設定時の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

■ 基準価額の主な変動要因

基準価額は期首に比べ5.5%の上昇となりました。

なお、詳細については、P4「投資環境および運用経過について」にてご説明します。

■当該投資信託の特色とポートフォリオについて

『世界の成長を取り込める優れた企業と地域金融機関を組み合わせ、長期投資を通じて豊かな生活と地域社会への貢献を目指します。』

環境の変化が激しくグローバルな競争が厳しい時代を乗り越えられる企業を中心に約30社へ投資する「コモンズ30マザーファンド」を通して世界の成長を取り込み、さらに地域に密着した静岡銀行の株式への投資を通じて地域社会に貢献する。こうした未来志向な地域金融の実現を「コモンズ30+しずぎんファンド」は目指しています。

1. 長期的な視点で優れた企業30社程度に集中投資を行う「コモンズ30マザーファンド」へ投資します
世界の成長も取り込める優れたグローバル企業を中心に約30社に投資するコモンズ30マザーファンドに、当ファンドの純資産総額の概ね90%程度の投資比率で資産配分することを基本とします。

■マザーファンドにおける投資対象選定のプロセス



2. 静岡銀行の株式に投資をします

地域に密着した静岡銀行の株式に当ファンドの純資産総額で10%を上限に高位に組み入れを行うことを基本とします。(当ファンドの目的は長期的な信託財産の成長を図ることを目的とし、静岡銀行株式への投資についてはコモンズ投信の運用方針に基づき決定されております)

3. コモンズは、「対話」を大切にしています

コモンズ投信は、お客さま(受益者)と投資先企業の交流セミナーにも積極的に取り組んでいきます。お客さま(受益者)には、ご自身の資産の投資先と対話ができることで安心感と同時に企業を応援する楽しさを感じていただき、企業には消費者でもあるお客さま(受益者)との対話で企業価値の創造につなげていただくことを期待しています。

■投資環境および運用経過について（コモンズ30マザーファンド）

◎市況（外部環境）と期中の投資行動について

期初～3月

期初～3月の国内株式市場は、日経平均株価で2万円をうかがう強い展開となりました。米国景気指標の回復や欧州株高などの良好な外部環境と国内でのインバウンド消費や原油安などを背景とした国内景気回復期待の高まりから2月を中心に強含みの相場展開でした。業種別では、医薬品や消費関連などの内需関連が相場を牽引しました。また、株式市場のトピックとしましては、これまで株主還元 to 消極的であったファナックの方針転換が注目されました。当ファンドの組入銘柄では、アルツハイマー型認知症治療薬の開発期待が高まったエーザイが大幅上昇となりました。

なお、当ファンドの投資行動としては、この間、新規に「デンソー（6902）」をポートフォリオに組入しました。デンソーは、コモンズ30マザーファンドのスタート当初より、度々、投資委員会でも取り上げられてきた銘柄です。

この度、これまでの強みが進化して長期的に企業価値の向上を高めていけるとの判断にいたりました。具体的には、技術の変化や経営環境の変化への対応力がより高まってきたと考えました。当面のビジネスは、自動車市場の拡大に加え、自動車のモジュール化（複数の機能をまとめた部品にすること）の流れで恩恵を受けます。中長期的には成長が期待される自動運転が追い風となります。自動運転では、数多くの情報をさばき、「瞬時に」、「ベスト」な指示を出すことが自動車部品メーカーに求められますが、デンソーは、ソフトウェア開発に注力するとともに、技術力を武器に強みを発揮していく見込みです。この結果、3月末のポートフォリオ組入銘柄は30銘柄となりました。

4～6月

4～6月の国内株式市場は、5四半期連続の上昇となりました。6月24日には、日経平均株価でITバブル期以来の高値更新をするなど、上昇基調が継続しました。需給面では4月から5月の外国人買いが牽引し、円安もレンジを抜けてきたことが業績への期待を膨らませました。業種別（東証33業種）では、保険業、銀行業の金融関連、非鉄金属、インバウンドが好調な小売りが上昇し、当ファンドの組入銘柄でも資生堂がインバウンド関連として30.24%の上昇となりました。

なお、当ファンドの投資行動として、この間に組入銘柄の変更はありませんでした。

7～9月

7～9月の国内株式市場は、8月11日の中国人民元の基準値切り下げを発端とする「世界同時株安」の影響を受け、大幅に下落しました。この間、ギリシャの財政問題、中国景気減速、新興国景気不安、米国利上げ観測などが複合的に懸念として台頭し、リスクオフ（リスク回避に伴う換金売り）の動きが加速しました。当ファンドの組入銘柄では、カカクコム、ベネッセホールディングス、セブン&アイ・ホールディングスの3銘柄が上昇となりましたが、残りの約9割の銘柄が下落となりました。

なお、当ファンドの投資行動として、この間に組入銘柄の変更はありませんでした。

10～12月

10～12月の世界の株式市場は、中央銀行の動向が注目されました。ECB（欧州中央銀行）、中国人民銀行の追加緩和に加え、日本銀行が政策の補完措置導入を決定、一方で米国景気の好調さからFRB

(米連邦準備理事会)は利上げを決定しました。ECBと日本銀行については市場の期待が高かったため、市場はややネガティブな反応となりました。また、国内株式市場では、3月決算企業の中間決算が発表となり、好決算企業が物色されました。当ファンドの組入銘柄でも、ディスコの37.6%の上昇を筆頭にダイキン工業、東京エレクトロン、日東電工、シスメックス、カカココム、SMCの7銘柄が20%を超える上昇となりました。一方、旭化成の子会社の旭化成建材で“杭工事データ流用問題”が発生し、株価にも大きな影響を与えました(10~12月期では2.04%の下落)。

なお、当ファンドの投資行動として、この間に組入銘柄の変更はありませんでした。

◎期中の企業との対話について(2015年12月まで)

1月にはセブン&アイ・ホールディングスをお招きしてコモンズ30塾『女性の活躍セミナー』を開催しました。男女ともに働き方が多様になる中での、同社のダイバーシティ推進の取り組みについてお話を伺い、参加者からの質問にも真摯にお答えいただきました。

4月から5月に「コモンズ30ファンド6周年イベント」を東京・大阪・名古屋で開催し、約500名の方々から参加申込をいただきました。投資先企業6社(資生堂、シスメックス、味の素、ヤマトHD、堀場製作所、ベネッセHD)の方々との「対話」も行われ、大変内容の濃いイベントになりました。

6月1日からコーポレートガバナンス・コードが導入され、より企業との対話を充実させていく方針としました。

また、6月には堀場製作所をお招きし、大阪にて初めてのコモンズ30塾『女性の活躍セミナー』を開催しました。ダイバーシティーマネジメントの取り組みについてお話をお伺いし、参加者同士の活発な意見交換も行われました。

8月にはクロネコヤマトさんの総物流施設羽田クロノゲートに「こどもトラスト」を利用いただいている親子で伺いました。最先端の物流システムの見学の後に、こどもたちからもヤマトHDのIR(投資家向けの広報)の方に質問をしていただきました。こどもの視点からの質問にも丁寧に回答をいただくなど、とても盛り上がりしました。9月には、ダイキン工業をお招きしての「女性活躍セミナー」も行いました。

10月には、旭化成の子会社の旭化成建材で“杭工事データ流用問題”が発生し、株価にも大きな影響を与えました。世界の長期投資家の投資スタンスと同様に、問題が発生した場合の当社の行動は「対話」となります。この対話を通じ、10年後から見た時に当該銘柄の保有を続けるべきか売却するべきかを考えて参ります。12月、一連の問題が一段落したところで、旭化成のIRチームが当社を訪れて真摯に説明してくれました。引き続き、注意深く調査を続けていきたいと考えています。

■運用経過について(コモンズ30+しずぎんファンド)

◎コモンズ30+しずぎんファンドの投資行動について

当期間中の静岡銀行株式は、期首1,117円、高値1,519円(2015年8月18日)、安値999円(2015年1月16日)、期末1,160円で推移しました。

また、期中の組み入れ比率は最大8.75%、最少6.86%となりました。

◎投資先企業

コモンズ30+しずぎんファンドの直接投資先である静岡銀行(8355) 株式について

静岡銀行：大手地方銀行、平成27年度中間期末の主要勘定：貸出金残高 7 兆4, 248億円、預金等残高 9 兆2, 716億円、有価証券残高 1 兆9, 728億円（出所：中間期ディスクロージャー誌）

新しい可能性に挑戦する「しずぎん」を中期経営計画のビジョンに据え、①地域密着型金融のさらなる深化、②新たな事業領域・収益機会への挑戦を基本戦略に世界一の地方銀行を目指しています（第12次中期経営計画より抜粋）。

コモンズ30マザーファンドの当期末における投資先は以下の30社です（証券コード順）。各企業の特長について、簡単にご紹介いたします。

銘 柄	銘 柄 選 択 の 視 点
日揮 (1963)	世界約70カ国、2万件以上のプロジェクト実績があり、他社に先駆けて海外展開しました。オイルメジャー、新興国からの絶大な信頼で、世界のエネルギー需要に貢献しています。また新興国の水処理等の環境事業へも参入し、成長を目指しています。
カカコム (2371)	価格.com（家電比較サイト）、食べログ（レストラン口コミサイト）など、利用者3,000万人以上のサイトを複数運営しています。今後も、インターネットユーザーの利便性を最重視し、旅行、不動産、映画など、新規領域での事業開発が期待されます。
味の素 (2802)	日本の昆布だしから抽出した「うま味」を発見、世界の食文化に合わせた、調味料や加工・冷凍食品、飲料などを提供しています。2050年の世界人口90億人時代を見据え、東南アジア、中南米、アフリカで販売ネットワークを構築、ネスレ、ユニリーバ、ダノンを追いかけています。
セブン&アイ・ホールディングス (3382)	変化への対応、基本の徹底という企業文化が浸透しており、オムニチャンネル、セブンイレブンの大量出店、北米でのコンビニ買収戦略、などでさらなる高みを目指しています。コンビニの中で、同社にぴったりくる表現として、「ダントツセブン」、「流通革命の中で、良いポジショニング」という感じです。
東レ (3402)	レーヨンの生産から始まり、多角化しながら発展。繊維での縫製品事業や炭素繊維複合材料は顧客との強いコネクションを持ち、高い成長が期待されます。自前主義にはこだわらず、M&Aやアライアンスにも積極的。先端材料No.1企業目指し邁進しています。
クラレ (3405)	製造技術が必要で、他社が真似し難い製品を作っています。液晶の偏光板に用いられるポリアルフィルム、自動車用ガソリタンクに用いられるエパールなどでは、圧倒的なシェアを誇ります。
旭化成 (3407)	化学繊維事業から医薬・エレクトロニクス事業へ事業構成の転換により、収益性の向上を目指しています。先進的な開発に取り組む文化を持っており、人工腎臓やりチウム二次電池用セパレーターなどは世界トップクラスです。
信越化学工業 (4063)	収益に対しての執着心が強く、強いポジションを築いています。塩化ビニルなどの汎用品と、半導体ウエアなどの先端テクノロジーの双方で高いシェアを獲得しています。

コモンズ30+しずぎんファンド

銘 柄	銘 柄 選 択 の 視 点
エーザイ (4523)	世界的な競争力のある創薬メーカーです。企業理念の定款への記載や、役員選任理由を明確にした200ページの株主総会招集通知の作成などガバナンスの基本観がとてもしっかりしています。
楽天 (4755)	社内公用語の英語化、海外企業買収など、成長に向けた強い意欲が際立ちます。社員による店舗サポートが強みで、理念の共有、教育等の人的資産投資を積極に行っています。
資生堂 (4911)	巨大市場の中国、アジアで認められた美の感性、アジア人の肌を知り尽くした技術、おもてなしの心（接客力）が成長の牽引力となっています。
リンナイ (5947)	給湯、暖房のトップメーカーです。製品デザインの刷新、製販一体の全員経営、経営の見える化などの経営革新の成果が現れています。創業期より海外展開を行っており、韓国、インドネシア、ブラジル、オーストラリアなどでも強いブランドを築いています。
ディスコ (6146)	半導体やLEDの製造に欠かせないグラインダーやダイサーなどを製造しています。「誰が正しいかではなく、何が正しいか」などディスコバリューで、自社の経営体制も磨き続けています。
SMC (6273)	工場の自動化に不可欠な空気圧機器で世界シェアトップです。需要増を見据えた先行的な生産能力拡大と強い営業力で競合を圧倒。自動車、電機、機械向けから、医療および食品関連でも成長しています。
コマツ (6301)	多角化の失敗から学ぶ姿勢、キャタピラーに並ぶ競争力、それを支えるコマツウェイ（文化）、建設機械をインターネットに繋ぐ新しいビジネスモデルが強みです。
クボタ (6326)	長期的に世界の食糧需要が増加するなか、世界の競合企業に比べて、水田用、中小型の農機具で高い競争力を持っています。今後は、特にアジアでの成長が期待されます。
ダイキン工業 (6367)	世界に誇る日本の省エネ技術、強い販売力、優れた商品力が競争力の源泉であり、アフターケアとメンテナンスを絡めた総合力も抜群です。
日立製作所 (6501)	2008年度の巨額赤字後、マネジメントの強力なリーダーシップで進められた構造改革で強靱な組織になり、収益体質も強化。「インフラとITをつないで、世の中を便利にする」をモットーに、グローバルでの展開を加速。重視する「ダイバーシティ」が、成長の大きな武器となります。
マキタ (6586)	リチウムイオン電池など、軽量・低振動で使用者の健康に配慮をした製品開発を行い、利用時間が長いプロ向けで高いシェアを獲得しています。ものづくりだけでなく、保守メンテナンス体制も充実しており、先進国では原則3日に対応可能な修理体制を構築しています。
堀場製作所 (6856)	創業者経営哲学「おもしろおかしく」を継承し、国際展開、自動車用から科学（研究）用、半導体用、現在の医療用まで、時代に応じて事業分野を拡大中です。ニッチ市場で高いシェアを誇り、事業分散と地域分散を組み合わせたマトリックス経営をしています。買収・提携も巧みです。

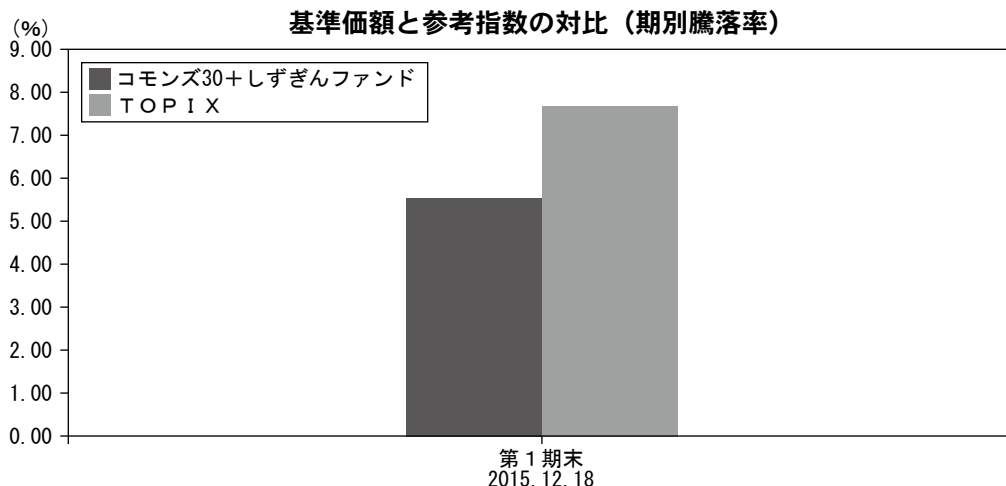
コモンズ30+しずぎんファンド

銘 柄	銘 柄 選 択 の 視 点
シスメックス (6869)	ヘルスケアの進化に貢献する企業です。ヘマトロジー（血液中の赤血球や白血球などの数や種類、大きさを分析することにより、精密な検査が必要かどうかを判断するための検査）分野において世界No. 1シェアを確立。大学、研究所、病院を顧客に急発展し、サステナブル企業として成長を続けています。
デンソー (6902)	1949年にトヨタ自動車から分離独立し「日本電装」として創業。自動車市場の拡大や自動車のモジュール化（複数の機能をまとめた部品にすること）などが追い風となります。今後の成長が期待される自動運転では、ソフトウェア開発に注力するとともに、技術力を武器に強みを発揮していく見込みです。
日東電工 (6988)	成長が期待される環境や医療向けなどに事業領域を柔軟に変化させながら、固有の技術をベースに、シートやフィルムに付加価値を加えた製品で成長しています。それぞれの地域ごとに品質や価格を調整し、シェアの獲得を目指しています。
ホンダ (7267)	お客さまに自動車のみならず、夢の詰まったモビリティ（移動体）を適正価格で提供します。歴史的に難局に強く、創業から脈々と流れるチャレンジ精神で、持続可能な成長を遂げています。
丸紅 (8002)	相対的に資源比率が低いことが特徴の一つです。バリューチェーンを構築し、景気の影響を受けにくいトレーディングなど、安定した収益体制を確立しています。特に、食料（穀物）、電力（新興国での発電）などの事業領域に強みを持っています。
東京エレクトロン (8035)	「医療や環境、新しい産業の未来を考えるとチップの将来は無限」と会長は確信し、商社から出発、今や世界トップの半導体製造であるアブライドマテリアルの背中まで迫っています。経営はクレドの心温まるメッセージでけん引。愚直で本質的な挑戦を続けています。
三菱商事 (8058)	地球規模の視点で、事業（非金融）と投資（金融）を組み合わせという世界でも稀な事業モデルです。三菱三綱領をベースに、長期持続的成長を意識した経営を志向しています。引き続き世界経済の成長を享受して、成長を続けると思います。
ユニ・チャーム (8113)	これまで培ってきたマーケティング力を生かし、新興国ではトイレタリーで、先進国ではペットケアでの成長を目指しています。経営の仕組み化や、他社から学び継続的改善をおこなっていることは、強みの一つです。
ヤマトホールディングス (9064)	「クロネコヤマトの宅急便」で親しまれる宅配便業界のトップ。大型物流拠点を構築、電子商取引業者からの需要、B2B（企業間）の物流需要の取り込みなど総合物流企業へと変貌していきます。国内の当日配送エリアは拡大の方向、アジアへの生鮮食品の輸出増加なども期待されます。
ベネッセホールディングス (9783)	日本の通信教育事業において、圧倒的なシェアを誇ります。国内教育事業で培った知恵を用い、海外展開（台湾、中国、韓国）と事業領域拡大（介護、語学）で、変化し続ける環境を乗り越えて成長を目指しています。

■ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

以下グラフは、当ファンドの基準価額と参考指数（T O P I X）の騰落率の対比です。



■分配金について

第1期の分配金は0円とさせていただきました。なお、分配については、毎決算時に、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。

【分配原資の内訳】

（単位：円・％、1万口当たり・税引前）

	当 期
	2014年12月29日～2015年12月18日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—％
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	554

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金（税引前）と一致しない場合があります。

（注）—表示は該当がないことを示します。

今後の運用方針

＜コモンズ30+しずぎんファンド＞

第2期（2015年12月19日～2016年12月18日）については、第1期と同様の運用方針を継続いたします。

- ・「コモンズ30マザーファンド」に、当ファンドの純資産総額の概ね90%程度の投資比率で資産配分することを基本とします。
- ・静岡銀行の株式に当ファンドの純資産総額の10%を上限に高位に組み入れを行うことを基本とします。

＜コモンズ30マザーファンド＞

私たちは、2016年の国内株式市場は企業の好業績をベースに強気で見っていますが、昨年に続き、変動幅が上下に大きくなる難しい展開を想定しています。今期を含み、少し中期的な時間軸で金融市場を俯瞰しますと①世界景気の減速がどの程度で止まるのか、新興国経済のボトムはどこか、②米国の利上げは順調に行われるのか、③中国経済のソフトランディングと構造改革は成功するのか、④原油価格の均衡点はどこか、⑤中東やテロなどの地政学的なリスクは拡大しないのか。などがテーマになると考えています。また、先進国中央銀行の金融政策の限界やグローバルでの金融規制の影響なども複雑に絡まってくると思います。

しかし、こうした不透明で不確実な環境下こそ、当マザーファンドの特長が発揮される局面と考えています。当ファンドに組み入れられている企業は、結果として世界の成長を取り込める「強い企業」が中心であり、まさに真のグローバル企業群です。こうした企業は、世界の景気変動は勿論、政治や経済・金融などの事業を取り巻く環境の変化を吸収し、進化を続けられる企業です。ある意味では、企業が皆さんに代わって市場の変動に対応してくれているともいえます。今後も、こうした強い企業を見つけるために、企業との対話を通じて財務情報だけでは分からない、非財務情報となる“見えない価値”を見極めるために弛まなく努力を続けて参ります。引き続き当ファンドにご期待ください。よろしくお願いいたします。

＜静岡銀行株式＞

当ファンドの純資産総額の10%を上限に組み入れを行って参ります。

● 1万口当たりの費用明細

項 目	当 期 2014年12月29日～2015年12月18日		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	129円	1.208%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額は10,655円です。
（投 信 会 社）	（ 62）	（0.578）	委託した資金の運用の対価
（販 売 会 社）	（ 62）	（0.578）	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	（ 6）	（0.053）	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	12	0.111	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株 式）	（ 12）	（0.111）	
(c) そ の 他 費 用	12	0.112	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	（ 12）	（0.112）	・ 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	153	1.431	

(注) 期中において発生した費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料及びその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

● 売買および取引の状況（2014年12月29日～2015年12月18日）

株 式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内	上 場	千株 30	千円 36,752	千株 一	千円 一

(注) 金額は受渡し代金。

(注) 単位未満は切捨て。

親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
コ モ ン ズ 30 マ ザ ー フ ァ ン ド	千口 173,096	千円 465,805	千口 17,600	千円 48,739

(注) 単位未満は切捨て。

●株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合（2014年12月29日～2015年12月18日）

項 目	当 期
	コモンズ30+しずぎんファンド
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	36,752千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	21,897千円
(c) 売 買 高 比 率 (a)／(b)	1.67

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注) 金額の単位未満は切捨て。

項 目	当 期
	コモンズ30マザーファンド
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	10,726,687千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	12,248,890千円
(c) 売 買 高 比 率 (a)／(b)	0.87

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注) 金額の単位未満は切捨て。

●主要な売買銘柄（2014年12月29日～2015年12月18日）

コモンズ30マザーファンドにおける株式の主な売買

買 付		売 付	
銘 柄	株 数 金 額 平均単価	銘 柄	株 数 金 額 平均単価
デンソー	千株 95.1 541,533 5,694	エーザイ	千株 46.6 339,446 7,284
東京エレクトロン	49.6 350,741 7,071	資生堂	107.9 266,550 2,470
日揮	136 299,870 2,204	カカクコム	111.8 225,526 2,017
小松製作所	129.5 296,704 2,291	東京エレクトロン	29.7 215,824 7,266
旭化成	312 293,257 939	ディスコ	19.4 200,183 10,318
楽天	153.9 268,941 1,747	マキタ	23.5 154,137 6,559
丸紅	383.4 262,614 684	東レ	144 149,713 1,039
三菱商事	108.7 258,765 2,380	本田技研工業	37.1 149,620 4,032
日立製作所	322 256,100 795	ヤマトホールディングス	54.9 144,723 2,636
ユニ・チャーム	86.7 243,963 2,813	クラレ	94.2 143,278 1,521

(注) 金額は受渡し代金。

(注) 金額の単位未満は切捨て。

●利害関係人との取引状況等（2014年12月29日～2015年12月18日）

当期中における利害関係人との取引状況等はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人をいいます。

●組入資産の明細
国内株式（上場株式）

銘 柄	当 期 末	
	株 数	評 価 額
	千株	千円
銀行業(100.0%) 静岡銀行	30	34,800
合 計	30	34,800
	銘 柄 数 <比 率>	<7.7%>

(注) 銘柄欄の（ ）内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

親投資信託残高

	当 期 末	
	口 数	評 価 額
	千口	千円
コ モ ン ズ 30 マ ザ ー フ ァ ン ド	155,495	416,184

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

(注) 当期末におけるコモンズ30マザーファンド全体の口数は5,288,805千口です。

マザーファンドの組入資産の明細につきましては、マザーファンド頁をご参照ください。

●投資信託財産の構成

2015年12月18日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株 式	34,800	7.6
コ モ ン ズ 30 マ ザ ー フ ァ ン ド	416,184	91.1
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	5,815	1.3
投 資 信 託 財 産 総 額	456,799	100.0

(注) 金額の単位未満は切捨て。

●資産、負債、元本および基準価額の状況

2015年12月18日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	456,799,317円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	5,814,519
株 式(評価額)	34,800,000
コモンズ30マザーファンド(評価額)	416,184,797
未 収 利 息	1
(B) 負 債	2,671,645
未 払 信 託 報 酬	2,457,990
そ の 他 未 払 費 用	213,655
(C) 純 資 産 総 額(A－B)	454,127,672
元 本	430,271,610
次 期 繰 越 損 益 金	23,856,062
(D) 受 益 権 総 口 数	430,271,610口
1万口当たり基準価額(C／D)	10,554円

(注) 期首元本額 55,736,885円
 期中追加設定元本額 416,495,198円
 期中一部解約元本額 41,960,473円

●損益の状況

(2014年12月29日～2015年12月18日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	362,028円
受 取 配 当 金	361,939
受 取 利 息	89
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 4,423,212
売 買 損 益	1,902,321
売 買 損	△ 6,325,533
(C) 信 託 報 酬 等	△ 3,822,197
(D) 当 期 損 益 金(A＋B＋C)	△ 7,883,381
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	31,739,443
(配 当 等 相 当 額)	(22,227)
(売 買 損 益 相 当 額)	(31,717,216)
(F) 計 (D＋E)	23,856,062
(G) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金(F＋G)	23,856,062
追 加 信 託 差 損 益 金	31,739,443
(配 当 等 相 当 額)	(878,542)
(売 買 損 益 相 当 額)	(30,860,901)
分 配 準 備 積 立 金	711,312
繰 越 損 益 金	△ 8,594,693

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (注) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(711,312円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、および信託約款に規定する収益調整金(23,144,750円)より分配対象収益は23,856,062円(1万口当たり554円)ですが、当期に分配した金額はありません。

【お知らせ】

該当事項はありません。

※本運用報告書作成時点においては、当期間に係る当ファンドの監査は終了しておりません。

●静岡銀行との資本・業務提携について

コモンズ投信は、2015年10月21日に、静岡銀行を割当先とする第三者割当による新株発行（以下「本第三者割当増資」）を行いました。その結果、静岡銀行は22.4%の議決権を持つ株主となりました。

コモンズ30マザーファンド

＜第6期＞：2015年1月19日

計算期間：2014年1月21日～2015年1月19日

「コモンズ30マザーファンド」は、1月19日に第6期の決算を行いました。

以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第6期の運用状況をご報告申し上げます。

運 用 方 針	①主として、国内外の金融商品取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）している株式の中から、投資対象選定の基準に照らして優良と判断した企業に投資します。 ②ベンチマークは設けず30銘柄程度に厳選投資を行い、原則として短期的な銘柄入れ替えは行わず長期保有することを基本とします。 ③株式の組入比率は、市場環境に応じて、投資信託財産総額の30%以上を基本とします。 ④市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準になったとき等やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。
主要運用対象	国内外の金融商品取引所に上場されている株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	株式への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。 投資信託証券への投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以内とします。

●最近5期の運用実績

決 算 期	基準価額	期 中 騰落率	参考指数 (TOPIX)	期 中 騰落率	株式組入 比 率	純資産 総 額
	円	%		%	%	百万円
2期（2011年1月18日）	14,080	△ 4.7	931.58	△ 2.7	96.1	1,685
3期（2012年1月18日）	12,235	△13.1	734.98	△21.1	85.1	2,314
4期（2013年1月18日）	15,670	28.1	911.44	24.0	97.5	3,604
5期（2014年1月20日）	21,080	34.5	1,293.86	42.0	79.3	8,614
6期（2015年1月19日）	24,275	15.2	1,372.41	6.1	98.7	10,612

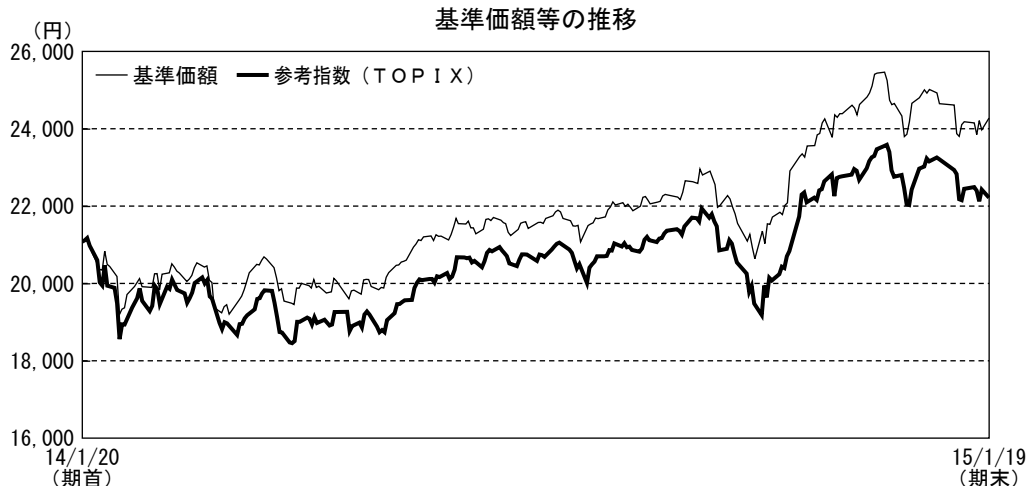
（注）TOPIX：東証株価指数（東証市場第一部に上場しているすべての日本株を対象とした、時価総額加重型の株価指数）

●当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基準価額	騰落率	参考指数 (TOPIX)	騰落率	株 式 組入比率
(期 首) 2014年 1 月20日	円 21,080	% —	1,293.86	% —	% 79.3
1 月末	20,437	△ 3.1	1,220.64	△ 5.7	83.0
2 月末	20,270	△ 3.8	1,211.66	△ 6.4	91.8
3 月末	20,495	△ 2.8	1,202.89	△ 7.0	97.1
4 月末	19,784	△ 6.1	1,162.44	△10.2	97.7
5 月末	20,600	△ 2.3	1,201.41	△ 7.1	95.1
6 月末	21,404	1.5	1,262.56	△ 2.4	95.4
7 月末	21,850	3.7	1,289.42	△ 0.3	92.2
8 月末	21,877	3.8	1,277.97	△ 1.2	95.1
9 月末	22,727	7.8	1,326.29	2.5	94.1
10月末	22,909	8.7	1,333.64	3.1	94.3
11月末	24,626	16.8	1,410.34	9.0	98.7
12月末	24,648	16.9	1,407.51	8.8	99.5
(期 末) 2015年 1 月19日	24,275	15.2	1,372.41	6.1	98.7

(注) 騰落率は期首比です。

●当期の運用経過



(注) TOPIX：東証株価指数(東証市場第一部に上場しているすべての日本株を対象とした、時価総額加重型の株価指数)

(注) 参考指数 (TOPIX) は、期首の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。

(注) 基準価額は1万口当たりで表記しています。

◎市況 (外部環境)

期初は1月下旬に発表された中国製造業PMI指数(購買担当者景気指数)の悪化を発端とした新興国に対する不透明感の拡大や、国内の消費税引き上げによる景気悪化懸念などにより急落しました。一時的に反転する局面もありましたが、中国経済に対する警戒感やウクライナ情勢の緊迫化などが相場を押し下げ、4月14日のTOPIXは2014年の年間最安値1121.50(ザラ場)となりました。

4月中旬から9月下旬にかけては、比較的堅調な相場展開となりました。株価の牽引役となったのは、GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)による日本株投資拡大への期待感や、日本企業の好決算と強気な見通し、積極的な株主還元策の発表などです。

10月中旬にかけては、米量的金融緩和終了に対する懸念や、IMF(国際通貨基金)による世界経済成長率下方修正などにより大幅な下落となりましたが、その後はGPIFによる日本株運用比率を大幅引き上げや、日銀の追加金融緩和策、さらに消費増税の延期や衆議院解散総選挙などが相場を強く押し上げ、TOPIXは12月8日に年間最高値1454.22(ザラ場)を付けました。

12月中旬までは、原油価格や露ルーブルの急落などにより株価下落するものの、年末にかけてFOMC(米連邦公開市場委員会)の声明がポジティブだったことや、衆議院選挙後のアベノミクスへの期待などから反転しました。年が明けるとギリシャ政局への不透明感や、世界銀行による世界景気見通しの

下方修正などの悪材料から株価は急落して始まりました。そして期末（1月19日）にかけては、原油価格の反転上昇やＥＣＢによる量的金融緩和実施の事前報道などがプラス材料となり、やや反発して期を終えました。

期中の投資行動（2014年12月まで）

○2014年 1 月

1 月末の組入れ銘柄は29銘柄、株式組入比率は83.0%と前月末（12月末77.1%）に対して5.9%ウェイトを上げました。ファンド月間リターンは2.46%の下落、同月のＴＯＰＩＸは6.27%下落となりました。

○2014年 2 月

2 月末の組入れ銘柄は29銘柄、株式組入比率は91.8%と前月末に対して8.8%ウェイトを上げました。ファンド月間リターンは0.91%の下落、同月のＴＯＰＩＸは0.74%下落となりました。

○2014年 3 月

3 月末の組入れ銘柄は29銘柄、株式組入比率は97.1%と前月末に対して5.3%ウェイトを引き上げました。3 月のファンド月間リターンは1.00%の上昇となりました。同月のＴＯＰＩＸは0.72%下落となりました。

○2014年 4 月

4 月末の組入れ銘柄は30銘柄となり、「東レ」を新規買付銘柄として組入れました。4 月末の株式組入比率は97.7%と前月末とほぼ同水準を維持しましたが、月内では引下げと引き上げを行いました。ファンド月間リターンは3.57%の下落、同月のＴＯＰＩＸは3.36%下落となりました。また、臨時投資委員会において、「投資委員会・最高運用責任者・運用部長」の役割の一部を下記のとおり変更しました。

	変更前	変更後
投資委員会	・ 30%超の現金比率の決定	・ 20%以上の現金比率の決定
最高運用責任者	・ 現金比率の決定権なし	・ 10～20%の現金比率の決定
運用部長	・ 組入先ウェイトのリバランス（1～5%） ・ 現金比率の決定（30%以下の場合）	・ 組入先ウェイトのリバランス（2～4%） ・ 10%以下の現金比率の決定

○2014年 5 月

5 月末の組入れ銘柄は30銘柄、株式組入比率は95.1%と前月末に引き続き高位を維持しました。5 月のファンド月間リターンは3.99%、同月のＴＯＰＩＸは3.35%上昇となりました。

○2014年 6 月

6 月末の組入銘柄は29銘柄となり、「久光製薬」を全売却いたしました。月末の株式組入比率は95.4%となりました。ファンド月間リターンは3.79%の上昇、同月のＴＯＰＩＸは5.09%上昇となりました。

○2014年 7 月

7 月末の組入れ銘柄は28銘柄となり、「ローソン」を全売却いたしました。月末の株式組入比率は「ローソン」の全売却により92.2%となりました。ファンド月間リターンは1.98%の上昇となりました。ＴＯＰＩＸは2.13%上昇となりました。

○2014年 8 月

8 月末の組入れ銘柄は29銘柄、「セブン&アイ・ホールディングス」を新規買付銘柄として組入れました。月末の株式組入比率は95.1%となりました。ファンド月間リターンは0.02%の上昇、同月のＴＯＰＩＸは0.89%下落となりました。

○2014年 9 月

9 月末の組入れ銘柄は28銘柄となり、「エア・ウォーター」を全売却いたしました。

9 月末の株式組入比率は94.1%となりました。ファンド月間リターンは3.78%の上昇となり、同月のＴＯＰＩＸは3.78%上昇となりました。

○2014年10月

10月末の組入れ銘柄は28銘柄、株式組入比率は94.3%となりました。ファンド月間リターンは0.70%の上昇、同月のＴＯＰＩＸは0.55%上昇となりました。

○2014年11月

11月末の組入銘柄は29銘柄となり、「日立製作所」を新規買付銘柄として組入れました。月末の株式組入比率は98.7%となりました。ファンド月間リターンは7.39%の上昇、同月のＴＯＰＩＸは5.75%の上昇となりました。

○2014年12月

12月末の組入銘柄は29銘柄、株式組入比率は99.5%となりました。ファンド月間リターンは0.02%の下落、同月のＴＯＰＩＸは0.20%の下落となりました。

● 1 万口当たりの費用明細

項 目	当 期 2014年1月21日～2015年1月19日		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
平均基準価額	21,802円		期中の平均基準価額です。
(a) 売 買 委 託 手 数 料	54円	0.246%	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株 式)	(54)	(0.246)	
合 計	54	0.246	

(注) 「比率」は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

● 売買および取引の状況 (2014年1月21日～2015年1月19日)

株 式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内	上 場	千株 4,170 (131)	千円 8,844,311 (-)	千株 2,557	千円 6,449,048

(注) 金額は受渡し代金。

(注) 単位未満は切捨て。

(注) () 内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

● 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合 (2014年1月21日～2015年1月19日)

項 目	当 期
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	15,293,360千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	8,615,232千円
(c) 売 買 高 比 率 (a)／(b)	1.77

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注) 金額の単位未満は切捨て。

●主要な売買銘柄 (2014年1月21日～2015年1月19日)

買 付				売 付			
銘 柄	株 数	金 額	平均単価	銘 柄	株 数	金 額	平均単価
	千株	千円	円		千株	千円	円
クボタ	335	494,863	1,477	クボタ	251	369,399	1,471
マキタ	84	451,891	5,379	ローソン	48.1	363,268	7,552
日揮	129	387,724	3,005	エア・ウォーター	206	331,692	1,610
リンナイ	45.1	384,041	8,515	久光製薬	72	323,773	4,496
資生堂	216.6	375,515	1,733	マキタ	56.5	305,976	5,415
セブン&アイ・ホールディングス	88.3	369,734	4,187	ダイキン工業	50.1	298,944	5,966
日立製作所	402	366,718	912	東京エレクトロン	44.1	273,436	6,200
ダイキン工業	62	358,455	5,781	ユニ・チャーム	58.8	266,253	4,528
東レ	528	352,485	667	カカクコム	153.9	264,751	1,720
カカクコム	215.1	351,507	1,634	シスメックス	54.5	261,265	4,793

(注) 金額は受渡し代金。

(注) 金額の単位未満は切捨て。

●利害関係人との取引状況等 (2014年1月21日～2015年1月19日)

当期中における利害関係人との取引状況等はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人をいいます。

●組入資産の明細
国内株式（上場株式）

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
		株 数	評価額
	千株	千株	千円
建設業(3.4%)			
日揮	50	150	360,750
食料品(3.5%)			
味の素	180	161	369,897
繊維製品(3.5%)			
東レ	—	384	368,985
化学(21.2%)			
クラレ	160	261	361,485
旭化成	310	343	380,901
信越化学工業	35	45.6	353,080
エア・ウォーター	130	—	—
資生堂	137	212.7	369,885
日東電工	55	54.8	375,380
ユニ・チャーム	30	126.2	377,527
医薬品(3.8%)			
エーザイ	47	77.7	402,175
久光製薬	52	—	—
金属製品(3.5%)			
リンナイ	25	46.3	363,455
機械(20.6%)			
ディスコ	30	34.9	379,014
SMC	8	11.5	351,727
小松製作所	85	137.8	344,431
クボタ	125	209	354,046
ダイキン工業	35	46.9	365,491
マキタ	40	67.5	357,075
電気機器(13.5%)			
日立製作所	—	402	353,438
堀場製作所	70	91.3	341,462
シスメックス	37	69.7	369,410
東京エレクトロン	44	41.2	345,091

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
		株 数	評価額
	千株	千株	千円
輸送用機器(3.5%)			
本田技研工業	75	102	369,648
陸運業(3.6%)			
ヤマトホールディングス	120	150.6	373,111
卸売業(6.6%)			
丸紅	360	507.2	344,642
三菱商事	140	167.6	347,099
小売業(3.4%)			
ローソン	32	—	—
セブン&アイ・ホールディングス	—	84.7	351,081
サービス業(9.9%)			
カカクコム	150	211.2	336,864
楽天	175	224.3	356,412
ベネッセホールディングス	40	99.9	347,152
合計	株 数 ・ 金 額	2,777	4,521
	銘柄数<比率>	29	29
			10,470,722
			<98.7%>

（注）銘柄欄の（ ）内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

（注）評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

（注）評価額の単位未満は切捨て。

●投資信託財産の構成

2015年1月19日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株 式	千円 10,470,722	% 98.7
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	142,126	1.3
投 資 信 託 財 産 総 額	10,612,848	100.0

(注) 金額の単位未満は切捨て。

●資産、負債、元本および基準価額の状況

2015年1月19日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	10,612,848,846円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	132,577,570
株 式(評価額)	10,470,722,300
未 収 配 当 金	9,548,940
未 収 利 息	36
(B) 負 債	40,082
未 払 解 約 金	40,082
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	10,612,808,764
元 本	4,371,877,012
次 期 繰 越 損 益 金	6,240,931,752
(D) 受 益 権 総 口 数	4,371,877,012口
1万口当たり基準価額(C/D)	24,275円

(注) 期首元本額 4,086,363,907円

期中追加設定元本額 1,323,579,063円

期中一部解約元本額 1,038,065,958円

(注) 当マザーファンドの当期末元本額におけるベビーファンド別内訳は、次の通りです。

コモンズ30ファンド 2,291,998,602円

コモンズ30ファンド(適格機関投資家用) 282,120,314円

コモンズ30ファンドⅡ-B(適格機関投資家用) 1,267,060,053円

コモンズ30ファンドⅡ-A

(一般投資家私募、適格機関投資家譲渡制限付)

505,564,673円

コモンズ30+しずぎんファンド 25,133,370円

●損益の状況

(2014年1月21日～2015年1月19日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	149,593,780円
受 取 配 当 金	149,481,090
受 取 利 息	112,637
そ の 他 収 益 金	53
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	1,243,935,763
売 買 益	1,821,299,508
売 買 損	△ 577,363,745
(C) 当 期 損 益 金(A+B)	1,393,529,543
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	4,527,784,676
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	1,487,867,886
(F) 解 約 差 損 益 金	△ 1,168,250,353
(G) 計 (C+D+E+F)	6,240,931,752
次 期 繰 越 損 益 金(G)	6,240,931,752

(注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。